

かかわりを大切にしたい話し合いの支援のあり方

— 中学年「つくってたべよう」の実践から —

梶山 雅 司

1 はじめに

これまで学校生活におけるいろいろな場面で、児童自身が自分の意志を表現することを大切に行ってきた。日々の生活の中で、児童は様々な場面で人やものとかかわりながら考え、感じ、そして表現しようとしている。自分の思いを表現する時、まわりの状況を考えず一方的であったり、うまく相手に伝わらずそのままになったりしていることもある。何か一つのものに決めていく活動においては、比較的表現することが容易な児童の意見に決まっていく傾向がある。

人やものとかかわりながら様々な経験をしていき、自分の考えを持ち表現していくことはこれからの生活を考えるうえでも大切なことと考える。さらに、独りよがりの表現ではなく、まわりの状況を見ながら適切な表現を考えることが必要で、それによりお互いのことをよく知ることがき信頼関係が生まれると考える。

そこで、いくつかある選択肢の中から、最終的には1つに話し合いによってまとめる活動を通して、自分の意見を持ち表現することや相手の意見を知ること、自分の意見と相手の意見をくらべることで、一方的な意見だけではまとまらずその解決方法を探ることなどをねらいとしながらその有効な支援のあり方について考えていきたい。

2 実践事例「つくってたべよう」話し合い活動

(1) 単元について

本学級の児童は、毎年11月に自分たちで植えたさつまいもを収穫し“やきいもパーティ”を開き味わってきている。食べる活動は大変興味もあり、調理も好きな児童が多い。また、クラスの中では融和的な雰囲気がある一方で、思いがあっても表現する方法に支援を必要としたり、それぞれの意見を出し合いみんなで問題を解決していくといった経験が少ない。そこでこの単元では、みんなで掘ったさつまいもを、あえてやきいもだけではなく、いくつかある調理法で試食してみることで“みんなで掘った大切ないも”をどの方法で調理するか、どういう食べ方をしたいかを投げかけ、それぞれの意見を出し合いながら方向性を決めていき、実際に調理していく活動につなげていきたい。

指導に当たっては、調理方法や食べ方を決定していく活動の中でクラスの中での意見の衝突や食い違いを明確にしつつも、「つくってたべる」という次の活動へ移るために友だちを説得したり、考え直したりする場を設定する。これにより友だちやいもなどの食材との新たなかかわりを期待し、いもを「つくってたべよう」の活動がより楽しく意欲をもてるものにしていきたい。

さらに単元に入る前にクラスにおける簡単な話し合いのルールをつくり、他の場面でも話し合いの場面を設定し経験していき、ゴール（一つにまとめる）までのイメージを持ちやすく意欲的に活動に参加できると考えた。

(2) 本単元における児童のかかわりの実態と課題

児	実 態	課 題
⑦	指導者や友だちの言葉かけを手がかりに活動する。	友だちの動きを手がかりにかかわりながら活動するようになる。
⑧	指導者の言葉かけを手がかりに活動する。	友だちの動きを手がかりに友だちを意識しながら活動するようになる。
⑨	集団での活動の仕方がわかり自己主張しながら友だちとかかわって活動する。	自己主張しながら友だちのことも考えて活動するようになる。
⑩	集団での活動の仕方がわかり自己主張しながら友だちのことを意識しつつ活動する。	自己主張しながら友だちの意見も比較しつつ活動するようになる。
⑪	集団での活動の仕方を友だちの動きを見ながら活動する。	自己主張しながら友だちを意識して活動するようになる。
⑫	指導者や友だちのことばかけや動きをみて活動する。	友だちとかかわりながら友だちを意識して活動するようになる。

この表は本学級が独自に作成した『「集団へのかかわり」と「支援」』をもとに児童それぞれの実態に応じて課題を設定した。これにより具体的な支援の方法を次のように考えた。

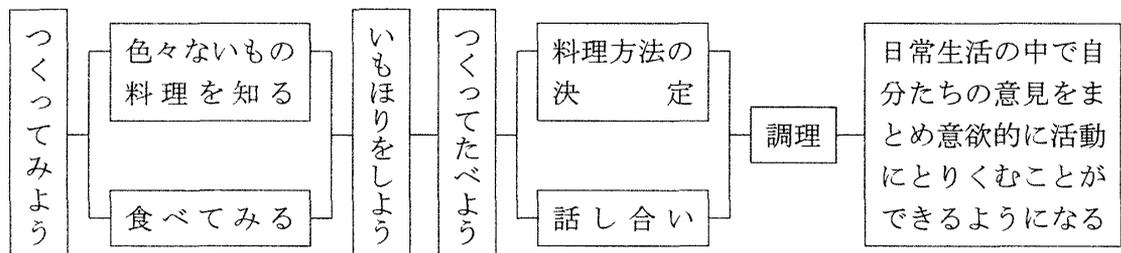
- ・判断する材料として、事前の授業の中で実際にいくつかの調理活動を行い試食してみる。
- ・それぞれの調理、試食における授業は設定したキャラクターが進め、印象付ける。
- ・話し合いの場面では、だれがどの選択肢を選んでいるかが視覚的にも分かりやすいよう顔写真カードを用い並べて貼っていく。
- ・1つにまとまるイメージが持ちやすいよう、顔写真カードが一つの選択肢に集まるような板書にする。
- ・意見をかえるよう交渉（相談）したり、判断したりする材料として、料理の写真カードや具体物を提示する。

これらの具体的な支援により、友だちとのかかわりや相手を意識した話し合い活動が進めていけるものとする。

(3) 指導目標

- 1 自分の意見を出しながら、友だちの意見も聞くことができるようにする。
- 2 いろいろあるさつまいもの料理から1つに選ぶことができるようにする。
- 3 さつまいもを使って調理する活動の手順を知り、楽しんで行うことができるようにする。

(4) 指導内容と計画について



① 第一次「つくってみよう」

ここでは、季節の食料としてさつまいもを取り上げ、簡単にできる料理を行った。実際には「いもスティック」「いもクッキー」「いしやきいも」の3種類をそれぞれ調理し試食した。その際、授業を進めていく担任が、その料理ごとに変装をして現れ「〇〇先生」と児童に名前をつけてもらい、印象に残るようにした。また、どの料理方法も簡単にできるものを選んだため、学校以外でも自分でやってみることも期待した。

② 第二次「いもほりをしよう」

夏にさつまいもの苗を植えた養護学級の畑でいもほりを行う。実際に自分たちの手で掘り起こすさつまいもは“自分たちが植えた”“自分たちが掘った”という気持ちを強く持つことができた。それまでは、店で購入したさつまいもを料理していたが、みんなが掘ったさつまいもを前に「これをどうやって食べようか？」と次の活動に移行しやすかった。さらにこの時点で「☆☆（料理方法）で食べたい」という声も聞かれ、次の活動への見通しをもっている児童もいた。

③ 第三次「つくって食べよう」

これまで3通り経験してきたさつまいもの料理方法を想起し、自分たちが掘った大切なさつまいもの料理方法を話し合いで決定していった。意見が3通りに分かれる中、強引にではなく交渉（相談）という形で友だちに働きかけ、その際に料理の写真カードや具体物（料理そのもの）を使って説得していくよう支援した。一つの料理方法に決定したらその料理を行い全員で食べるという活動を行った。

(5) 第三次「つくって食べよう」第1時について

話し合い活動における実践は本時（第三次，第1時）であることから、具体的にその内容を示す。

① 話し合い活動である本時の目標を次のように設定した。

○ さつまいも料理についての意見をだしながら、ひとつにまとめることができる。

② 自分の意見を持つことや相手の意見を知ることと、それをもとに意見交流がしやすくなるよう次のような授業仮説をたてた。

これまでの経験を想起しやすいように具体物や写真などを提示するならば、自分の意見を出すことができ、友だちとそれをもとに意見交流できるであろう。

③ 授業仮説をもとにそれぞれの児童の実態と課題とを照らし合わせ目標となる行動を設定し、それに対する支援を具体的に示した。

目 標 行 動	教 師 の 支 援	
自分の意見を持ち、表現することができる。 友だちの意見を聞いたり、説得したりすることができる。	意見を言いやすいよう、言葉かけなどを行う。 友だちに説明しやすいように具体物を提示するよう言葉かけをする。	⑨ ⑩
自分の意見を決め、表現することができる。 友だちの意見を興味を持って聞くことができる。	意見を決めやすいよう、イメージできるものを提示する。 意見を興味を持って聞けるよう、写真や具体物を提示する。	⑦ ⑧ ⑪
自分の意見を決めることができる。 友だちの意見を聞くことができる。	自分で選べるよう、写真や具体物を提示しどれがよいか言葉かけをする。 友だちの出した意見を分かりやすいよう、写真や具体物を提示し言葉かけをする。	⑫

④ 学習の展開

学習過程	予想される活動	教師の働きかけ	
		全 体	個 別
1 はじめのあいさつをする		1・学習の始まりとして毎時間位置づける。	1・当番の児童に前に出てくるよう言葉かけをする。
2 前時のふり返りと本時の活動を知る	2・思い出して言うであろう。 (児⑨⑩) ・すぐには思い出せないと思われる。 (児⑦⑧⑪⑫)	2◎本時の活動の見通しを持つよう、カードの提示や言葉かけをする。	2◎児⑨⑩が発言した内容をとりあげて全体に確認する。 ◎児⑦⑧⑪⑫には前時の活動を思い出しやすいよう言葉かけや写真を提示する。
3 どの調理法がよいか話し合う	3・自分の意見を言うが他の児童の意見はあまり感心を示さないとと思われる。 (児⑨⑩) ・何を選んでよいか迷うと思われる。 (児⑦⑪⑫) ・何をしてよいか迷うと思われる。(児⑧) ・他の児童の意見に関心を示さないとと思われる。 (児⑦⑧⑪) ・どうしてよいか迷うだろう。(全児) ・友だちに積極的に交渉するであろう。(児⑨⑩) ・友だちに交渉することが難しいと思われる。 (児⑦⑧⑪) ・友だちからの交渉に迷うと思われる。(児⑧⑫)	3◎誰が何を選んだかわかりやすいよう顔写真カードを黒板に貼っていく。 ◎選ぶ時の参考に具体物も提示しさらに試食なども進めながら前時までの活動も思い出させるよう言葉かけをする。 ◎意見が散らばっていただ一つにするためにどうすればよいか、さらに友だちに相談(交渉)してみよう投げかける。 ◎相談(交渉)により意見を変えた児童についてはそのつど顔写真カードを移動させ現在の集約状況が黒板でわかるようにする。 ◎意見の絞り込みができにくそうであれば次の活動へ進めないことを再度伝え相談(交渉)が活発に行われるよう支援する。 ◎特に自分の意見を変えた児童については具体物などで確認する。 ◎決定できたことを賞賛する。	3◎児⑨⑩には他の児童の意見を確認するように言葉かけをする。 ◎児⑦⑪⑫には自分のやりたいものを選ぶよう前時までの写真カードの提示や言葉かけをする。 ◎児⑧には自分の好きなものを選ぶよう具体物も提示する。また、誰が何を選んでいるかがわかりやすいよう黒板を見るよう言葉かけをする。 ◎児⑦⑧⑪には意見が同じ時など写真カードをわかりやすく黒板に貼りながら言葉かけをする。 ◎児⑨⑩には友だちに交渉する際に写真カードや具体物をもって話をするよう言葉かけをする。 ◎児⑦⑧⑪には友だちと意見が違っていることを板書などで確認しながらどうしたいかなどの言葉かけをする。 ◎児⑧⑫には判断材料になるよう実際に試食するよう言葉かけをする。 ・どの児童がどう動いたかを確認しやすいよう顔写真カードなどで再現する。
選ぶ			
絞り込み			
交渉			
試食			
決定			
4 決定したものの確認と次の見通しを持つ		4・決定したものを黒板に提示し次の活動はこの料理を作るという確認をする。	
5 おわりのあいさつをする		5・始まりと同様、毎時間位置づける。	5・当番の児童に前に出てくるよう言葉かけをする。

3 考察

(1) 本時の目標から

- さつまいも料理についての意見をだしながら、ひとつにまとめることができる。

自分たちの掘った大切なさつまいもの料理方法を話し合いで決める、という活動自体これまでの経験から当然“やきいもパーティー”ということ想定していた児童もいたが、ここに他の料理方法を提示することで、児童⑦⑧⑪⑫は自分の意見でそれぞれ料理方法を選択することができた。

児童⑨⑩は積極的に交渉し、時間的な制約（これが決まらなると次のつくってたべる活動へ移れない）も作用し、結果的に希望の変動や交渉が頻繁に行われ、最終的に児童⑩が、一人になってもみんなを説得した料理方法に決定した。

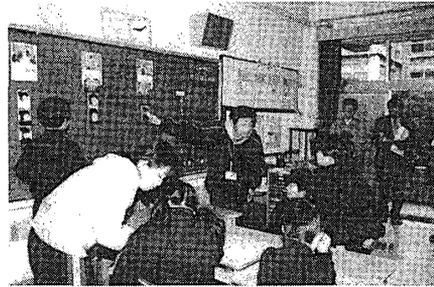
(2) 授業仮説から

- これまでの経験を想起しやすいように具体物や写真などを提示するならば、自分の意見を出すことができ、友だちとそれをもとに意見交流できるであろう。

具体的な支援として、料理の写真カードや具体物を準備した。最初に児童が自分の意見を言うときに、この写真カードを手がかりに全員が自分の意志を表現することができた。また、その際に黒板に3種類の料理のカードとその下に希望する児童の顔写真カードを貼ることで、今誰が何を希望しているか、どの料理にどのくらい希望しているかが視覚的にも分かりやすいようにしたが、これを見ながら児童⑨⑩が誰に交渉（相談）をすればいいのかが知ることができ、有効だった。交渉する時にも、言葉だけではなく写真カードを見せながら説得したり、具体物（料理そのもの）の試食を進めたりすることで相手のそばまでいき、顔を近づけて話しをするなどかかわる場面も多く見ることができた。途中、児童⑩以外の児童全員が意見が一致し、児童⑩一人だけ違う意見となった。ほぼ全員が児童⑩に対して交渉をしたが譲らず、逆に児童⑩がその他全員を一人ひとりと交渉していき、意見をまとめることができた。

4 おわりに

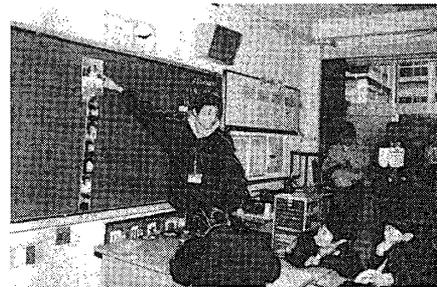
今回話し合いでこれまでの経験をもとに想定しやすいであろう「さつまいも」を取り上げてとりくんだが、話し合いを進める上でどの料理になっても食べることができるということが前提にあった。これにより、自分の意見にあまりこだわりが見られず3種類の選択肢を顔写真カードが頻繁に行き来した。自分の思いがある児童⑩が結局一人になっても最後まであきらめず、交渉を続けることで逆転することができた。そういう意味では支援のあり方についてはある意味有効に働いたが、「さつまいも」の料理自体にどれだけのこだわりと思い入れが生まれる（さつまいも料理とのかかわり）支援ができていたかが実は、今回の話し合いの進行に大きく影響していたと考える。話し合いがより深まり、緊張感あるものにしていくためにも題材の吟味も必要と感じる。また、このとりくみの成果として児童の変容を追っていき、さらなる課題の設定をしながら継続して支援のあり方を探っていきたい。



〈写真を見て料理を選ぶ〉



〈写真カードを使って交渉〉



〈料理方法決定〉